

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	実践工業数学Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0031		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 1		
開設学科	総合イノベーション工学専攻（先端融合テクノロジー連携教育プログラムコース）		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		1		
教科書/教材	実践工業数学 第3版						
担当教員	兼松 秀行,山口 雅裕,和田 憲幸						
到達目標							
微分方程式，確率，関数，統計，微分，積分，三角関数が，生物工学，物理化学，材料工学的な観点から理解でき，それらを使うことができる．							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		微分方程式，確率，関数，統計，微分，積分，三角関数を用いて，生物工学，物理化学および材料工学に関する応用的な問題を解くことができ，応用できる．		微分方程式，確率，関数，統計，微分，積分，三角関数を用いて，生物工学，物理化学および材料工学に関する基礎的な問題を解くことができる．		微分方程式，確率，関数，統計，微分，積分，三角関数を用いて，生物工学，物理化学および材料工学に関する基礎的な問題も解くことができない．	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		実践工業数学Ⅱは，確率，統計，微分，積分の数学的知識を使い，生物工学，物理化学，材料工学の専門科目への応用を，e-ラーニングによる遠隔教育によって学ぶ．					
授業の進め方・方法		・すべての内容は，学習・教育到達目標(B)<基礎><専門>に，JABEE基準1.2(c)，(d)に対応する． ・授業は，e-ラーニングによる遠隔教育によって行われ，内容理解を各章Ⅴ～Ⅶのレポートの提出と結果によってを確認される． ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする．					
注意点		<到達目標の評価方法と基準>上記の「知識・能力」1～3の習得の度合をレポートおよびコンテンツへのアクセス状況により評価する．「知識・能力」1～3の重みは均等で，課題と期末に出される特別課題を80%とし，レポート課題のレベルは，百点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する．またアクセス状況の評価を最大20%とする．					
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	Ⅴ 生物工学編－確率・統計 (1) 生物統計1 パラメトリックな検定 検定の考え方，検定の誤りと危険率，データの対応		1. 検定の考え方，検定の誤りと危険率，データの対応，t検定，Welchの検定，Z検定を理解できる．		
		2週	(1) 生物統計1 パラメトリックな検定 t検定，Welchの検定，Z検定		上記1		
		3週	(2) 生物統計2 ノンパラメトリックな検定 U検定(Man-Whitney検定)， χ^2 検定		2. U検定(Man-Whitney検定)， χ^2 検定，生物学的有意性と統計学的有意性の違い，公式の選定を理解できる．		
		4週	(2) 生物統計2 ノンパラメトリックな検定 生物学的有意性と統計学的有意性の違い		上記2		
		5週	(2) 生物統計2 ノンパラメトリックな検定 公式の選定		上記2		
		6週	Ⅵ 物理化学編－微分・積分，微分方程式，三角関数 (1) 熱力学の基礎方程式とその応用 熱力学第1法則，熱力学第2法則，物質の熱容量，マックスウェルの関係式		3. 熱力学第1法則，熱力学第2法則，物質の熱容量，マックスウェルの関係式，エントロピーの温度依存性，化学ポテンシャル，反応と平衡常数に使う数学を理解できる．		
		7週	エントロピーの温度依存性，化学ポテンシャル，反応と平衡常数		上記3		
		8週	(2) シュレーディンガー方程式とその解(並進運動(1次元，3次元)) シュレーディンガー方程式，自由電子のシュレーディンガー方程式の解法		4. 自由電子および井戸型ポテンシャル内，有限平面内箱の中の並進運動，回転運動および調和振動のシュレーディンガー方程式の解法，規格化に使う数学を理解できる．		
	2ndQ	9週	井戸型ポテンシャル内の並進運動のシュレーディンガー方程式の解法と波動関数の規格化		上記4		
		10週	(3) シュレーディンガー方程式とその解(調和振動，回転運動) 調和振動，2次元回転運動(古典論)		上記4		
		11週	2次元回転運動（量子論），3次元回転運動（量子論）		上記4		
		12週	Ⅶ 材料工学編－微分方程式と関数 (1) フィックの第1法則 金属中の拡散現象		5. 金属中の拡散現象，偏微分とフィックの第1法則の解法に使う数学が理解できる．		
		13週	フィックの第1法則の解法		上記5		
		14週	(2)フィックの第2法則 フィックの第2法則と定常状態での解法		6. フィックの第2法則と定常状態での解法，フィックの第2法則と非定常状態での解法，拡散距離が比較的短い場合の解法，有限な長さを持つ棒についての解法（変数分離）に使う数学を理解できる．		
		15週	フィックの第2法則と非定常状態での解法．拡散距離		上記6		

		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
	課題	受講状況	合計	
総合評価割合	80	20	100	
基礎的能力	80	20	100	